



市民の声を市政に反映

# 杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行

646号 2017年1月31日

〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8

TEL・Fax : 870-0335

携帯 : 090-5587-7693

Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

まともな業者の不利

# 腐敗の構造にメス



## 第4回定例会一般質問 VI

杉森議員は12月7日、第4回定例会で、①保育士の処遇改善、②公共事業等の入札及び契約、について一般質問した。今号では②の㊦を掲載する。

## 独自の調査はしない?

【杉森議員の質問】根本市長は2015年の市長選で、前市長と癒着している建設業者だけが莫大な利益を上げていると指摘しました。このことは逆に言えば、癒着していないまともな業者は不利益をこうむっていたということになります。この面での調査は進んでいるのでしょうか。

現在、不利益を被った業者が損害賠償請求の裁判に訴え、係争中とも聞いていますが、それはそれとして、市としては、不当な扱いを受け、不利益を被った業者についての独自の調査が必要かと考えますが、調査をする予定はあるのでしょうか。

【総務次長の答弁】係争中の件につきましては、係争中ですのでお答えできませんが、そのような疑われるような状況を排除することが重要と思っています。現状では、不利益を被ったところの調査は考えておりません。

## 三菱電機も長時間残業

毎日新聞 1/11

### 労働基準法違反容疑で送検

労使協定で定めた上限を超える違法な長時間残業を入社1年目の男性社員(31)にさせていたとして、厚生労働省神奈川労働局は1月11日、法人としての三菱電機と当時の上司を労働基準法違反(長時間労働)容疑で横浜地検に書類送検した。男性は適応障害で昨年11月に労災認定されている。広告大手の電通に続き、大企業が入社間もない社員に違法な長時間労働を強いている実態が浮かんた。

書類送検容疑は、神奈川県鎌倉市大船5の同社情報技術総合研究所で医療用半導体レーザーの研究開発などを担当した男性(2013年4月入社)に14年1月以降、それまでの倍以上の月100時間を超える時間外労働をさせたとしている。

男性は14年4月上旬ごろに適応障害を発症して休職。休職期間満了後の昨年6月に解雇された。労災認定後の昨年11月25日に東京都内で記者会見し、同社に解雇撤回を求める意向を明らかにしていた。

同社が男性に提供した入退室記録によると、14年1月16日～2月15日の残業は「過労死ライン」の2倍の約160時間だったが、男性は上司の求めで59時間半と過少申告していたという。男性は会見で「上司に『(2月以外は)40時間未満にしろ。毎月39時間だと不自然だから、ばらばらの数字にしろ』と言われ、32～37時間半と記載した」と主張していた。【早川健人】

# 首長懇は原電案を拒否

## 原電がゴマカシ案示す

日本原子力発電（原電）東海第二原発（東海村）を巡る原子力安全協定の見直し問題で、昨年十二月の原子力所在地域首長懇談会（座長・山田修東海村長）で原電が、協定は見直さず新たに取り決めに交わし、説明を尽くす案を自治体側に提示していたことが分かった。

懇談会側は受け入れを拒否した。水戸市内で十日、開かれた茨城原子力協議会の新春のつどいに出席した原電の村松衛社長が取材に応じ、明らかにした。

安全協定は、原電が東海第二原発の再稼働に必要な安全対策工事などで施設を新・増設する場合、「事前に甲（県）及び乙（東海村）の了解を得る」と定めている。ほかの隣接・周辺自治体は、必要に応じて県や村から意見を求められるのみで、再稼働の事前協議の場には参加できない。

## 安全協定を改定せず？

村松社長は「重要な新・増設の設備の変更に伴う安全対策について、事前に説明するようにする」とし、「基本的な安全協定の枠組みは維持しつつ、残ったところ、事前了解に関わる実質的なものについて、別途文書をもって担保させてもらうことをご提案させてもらった」と説明した。協定そのものを改訂する考えはないという。

## ゼロ回答を突き返す

村松社長は「他の立地県においても、基本的な枠組みは立地と周辺、その他で整備されている」とした上で、原電側の提案を「全国の前立地自治体の中で最も前に出ているもの

だった」と強調。懇談会側が「ゼロ回答」と受け止め、提案を突き返したことについて、「何ができるか、引き続き検討していきたい」と話した。

現在、新規規制基準の適合審査中の東海第二原発は、来年、法律上の寿命に当たる営業運転開始から四十年が経過する。今秋、再稼働に必要な運転延長の申請のタイムリミットを迎えるが、申請について村松社長は「現段階で最終的には決めていない」と述べるにとどめた。

## 放射線管理区域で白煙

原電は十日、東海第二原発の廃棄物処理棟で七日夜、廃液タンク内の放射性廃液を攪拌（かくはん）するモーターが過熱し、白煙が上がったと発表した。

原電によると、七日午後六時五十五分ごろ、廃棄物処理棟内の放射線管理区域で、警報が鳴り、モーターが自動停止した。駆け付けた職員がモーターから白煙が上がっているのを見つけ、一一九番した。出火はしなかったため、消火作業はしなかったという。

廃棄物処理棟は、東海第二原発で発生した放射性廃棄物を処理・貯蔵する施設。廃液タンク内に不純物が沈着・固着しないよう、モーターで送風機を回して空気を送り込んでいる。

原電は、モーターが過熱した原因を調査中で、原因が特定できるまで、放射性廃液は代替設備で攪拌するとしている。（酒井健）

原子力所在地域首長懇談会 2012年2月、脱原発を掲げる村上達也元東海村長が発起人となってつくった首長組織。原子力安全協定で、周辺自治体の権限や締結自治体の拡大を求めている。東海第二原発が立地する東海と周辺のひたちなか、那珂、日立、常陸太田、原発からおおむね30キロ圏で最も人口が多い水戸の6市村長で構成。

（茨城新聞2017年1月11日刊、山下葉月）

